かすみがうら

第205号
＜毎月1日発行＞
■ 発行所 ■
霞ヶ浦医療センター
かすみがうら編集局
〒300-8585
土浦市下高津2-7-14
Tel: 029-822-5050
Fax: 029-824-0494
E-Mail & WebSite
201-kasumi.main@mail.hosp.go.jp
https://kasumigaura.hosp.go.jp/

人口減少と超高齢化社会に向けて

＜院　長＞

～鈴木　祥司～

人口減少と超高齢化社会に向けて、日本の社会保障制度は大きな変革期を迎えています。医療・介護・年金・子育て・地域活性化など、一人ひとりの生活基盤を支える仕組みが、同時に進んでいます。

人口は、ピークを迎えてから緩やかに減っていくと、国の推計では、2100年ごろには今の人口の三分の一ほどになる、と見られています。高齢者の数は、しばらくは増えつづけますが、その後は、子どもの数が減っていくことで、全体としては、縮んでいく、という、大きな流れです。

この変化は、病院だけの問題ではなく、地域の医療、介護、保健、福祉、教育、住まい、仕事、すべてに、影響します。

霞ヶ浦医療センターは、茨城県南地域の、急性期から、慢性期、リハビリ、在宅療養、看護、介護、予防、までを、一つの法人で、つなぐ、地域医療構想の、中心を、担う、ことを、目指して、動いています。

病院の、機能を、急性期から、回復期、慢性期、へと、切り替える、ことは、単に、ベッドを、減らす、ことでは、ありません。

急性期の、ベッドを、減らして、浮いた、人員と、設備を、地域の、在宅療養を、支える、ための、人員と、設備に、振り替える、ことが、目的です。

入院の、期間が、短くなる、ことで、患者さんの、生活の、場が、病院から、自宅へ、戻る、ことが、増えます。

その、ときに、必要な、訪問看護、訪問リハビリ、訪問診療、が、地域で、足りる、ことが、前提です。

医療機能の、再編は、国の、方針、県の、計画、市の、計画、が、重なる、ところです。

茨城県は、県内を、いくつかの、医療圏に、分けて、それぞれの、圏内で、必要な、医療が、完結する、ことを、目指しています。

霞ヶ浦医療センターは、土浦市を、中心とする、圏域の、中で、急性期、と、回復期、を、担う、ことが、求められています。

一方で、人口が、減る、ことで、患者さんの、数そのものが、減る、ことも、事実です。

病院の、経営は、患者さんの、数と、診療報酬、で、成り立つ、ところが、大きい、ので、ここを、どう、支えるか、が、大きな、課題です。

診療報酬は、二〇一六年、二〇一八年、二〇一九年、と、三回、連続で、改定、されました。

医師の、働き方、も、変わります。

二〇二四年、から、医師の、時間外、労働、に、上限、が、かかります。

救急、当直、夜間、の、対応、は、これまで、多くの、医師、が、長時間、働いて、支えてきました。

この、ままでは、医療、を、維持、する、ことが、難しい、ところ、まで、来ています。

医師の、数、そのものは、増えています。

茨城県の、医師、の、数は、ここ、十年、で、二割、ほど、増えています。

ただ、増えた、ぶんが、どこに、配置、されるか、が、問題です。

都市部に、偏る、ことが、ないか、地方に、届く、ことが、ないか、です。

霞ヶ浦医療センターは、茨城県の、南、南東、の、地域、を、中心、に、医師、の、確保、に、動いています。

研修、医、の、受け入れ、を、増やす、ことで、将来、の、医師、の、顔、を、ここ、に、向ける、ことを、目指しています。

研修、医、は、一年、で、戻る、ことも、ありますが、その、一年、が、その、人、の、将来、を、ここ、に、向ける、ことが、あります。

救急、医療、は、救急、隊、と、病院、が、連携、して、患者さんを、受け、入れる、ことが、基本です。

救急、隊、が、搬送、する、ことで、病院、に、患者さんが、届く、ことが、多い、です。

霞ヶ浦医療センターは、救急、指定、病院、として、救急、隊、と、連携、して、患者さんを、受け、入れる、ことを、続けています。

救急、隊、の、出動、は、年、に、一〇、万、件、を、超えています。

救急、隊、の、出動、の、中、で、病院、に、届く、ことが、多い、ケースは、高齢、の、方、です。

高齢、の、方、は、一人、で、暮らす、ことが、増えています。

一人、で、暮らす、ことが、増えた、ことで、救急、隊、が、病院、に、届く、ことが、増えています。

茨城県の、救急、搬送、は、二〇一七、年、から、ここ、二、年、で、二、割、ほど、増えています。

増えた、ぶんの、中、で、高齢、の、方、の、搬送、が、目立つ、ところです。

霞ヶ浦医療センターは、救急、指定、病院、として、救急、隊、と、連携、して、患者さんを、受け、入れる、ことを、続けています。

救急、隊、の、出動、は、年、に、一〇、万、件、を、超えています。

救急、隊、の、出動、の、中、で、病院、に、届く、ことが、多い、ケースは、高齢、の、方、です。

高齢、の、方、は、

台風一九号が来た

＜庶務係長＞

～長谷川　裕～

一〇月一二日に伊豆半島に上陸し、関東から東北にかけて猛威を振るった台風一九号。土浦やつくばでも避難勧告が出る等、不安な週末を過ごされた方も多い事と思います。

当院では前日の金曜日に対応を話し合い、主に雨漏りや停電対策を実施しましたが、やはり複数個所で雨漏りが発生してしまいました。当日勤務だった方、後始末に追われた方、お疲れ様でした。

さて、大きな台風が来る度に紙面をにぎわす倒木・枝折れですが、今回も勿論ご用意しております。

こちら、まどかＢ棟正面のイチョウの巨木。最大直径５０ｃｍ強の幹が折れ、なんととなりの電柱をへし折ってしまいました。

翌日、重みを支える応急処置をしたのち、週明け火曜日に事務職員で解体しました。

あれ、君は昨年の台風２４号でも同じような被害を出していたよね？いい加減にして？

尚、これによる病院機能への影響は殆どありませんでしたが、現場は電柱が折れ、電線が下がっている状況ですので、むやみに近寄らないようにしてください。その他、大小の枝折れ等があり、影響の大きいものから順次対処していますが、当面、頭上の枝には注意してください。

花火大会しました

今月は日本舞踊です

一〇月二六日（土）に行われた土浦全国花火競技会、今年も当院の屋上を入院患者さんとご家族に開放して、花火見物をしました。毎年恒例のイベントで頂きますが、今年もたくさんの方が屋上にいらして、花火を楽しんだ。

中にはただ残念な事に、今年も花火ラムが何度も中断され、終了予定の時刻の八時半の時点でまだ三分の二しか終わっていないのに、大会は終了となってしまいましたね。何か不完全燃焼の花火でしたけど・・・・（苦笑）。

昨年よりはマシでしたけね。

さて、今月の患者さんイベントは穂踊会の皆様による日本舞踊です。どなたでもご参加頂けますので、ぜひお越しください。

＜日　時＞
一一月七日（木）
午後二時より

＜場　所＞
病棟四階
エレベーターホール

血糖が高いとどうなるの？

知っておこう明るい未来のために

＜代謝内科＞

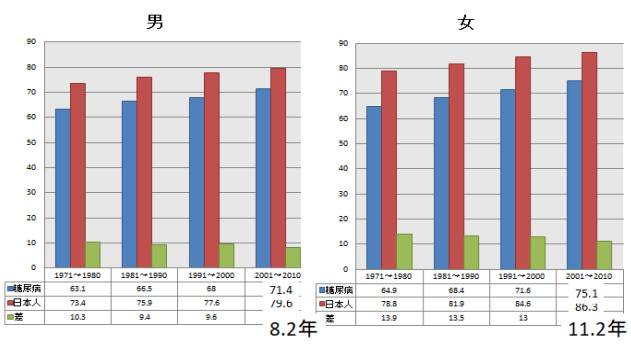
～渡邉　康子～

血糖とは一体何を表しているでしょう。血糖とは血液中のブドウ糖の濃度の事です。ブドウ糖は細胞のエネルギーの源です。細胞がエネルギーを作りだしますが、そのエネルギーが不足になりますと、今度は害になります。

健康な人では、血糖は空腹時でも食後二時間経てば一〇～一四〇ｍｇ／ｄｌ、食後一時間に低下しまして一〇九ｍｇ／ｄｌ未満に戻ります。米飯やパンなどの炭水化物を食べますと、血糖が上がりますと、膵臓からインスリンが出てきまして、血糖を細胞に取り込ませるように働きます。インスリンがないとブドウ糖が細胞に取り込まれないまま、血液中に吸収されずに停滞します。

糖尿病患者の寿命(平均死亡年齢)

10年ごとの変化



J. Japan Diab. Soc. 59(9): 667~684, 2016より作図

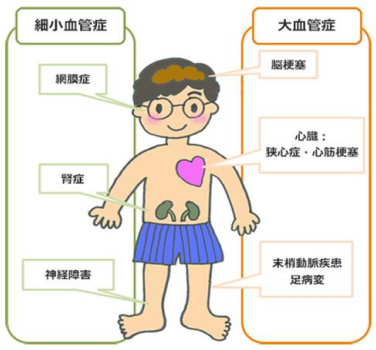
このような状態が続いていると、どんな害があるのでしょうか。

日本糖尿病学会では一〇年に一度、糖尿病患者さんの平均死亡年齢を発表しています。最新の二〇一一～一〇年迄の統計によると男性が七一・四歳、女性が七五・一歳です。徐々に寿命の差を縮めてはいますが、残念な事に未だ約一〇年寿命が短いのです（図１）。

暗い話をして恐縮ですが、今日は、あえてその現実をお話しします。

無駄な出来事を上手に決して暗くなる話をしますが、血糖コントロールが長くて血管の障害が細い血管の壁が傷つく事で太い血管の障害があります（図２）。

図2



国立国際医療研究センターホームページより

血糖の一～二カ月の平均点を表す指標にヘモグロビンＡ１ｃがあります。血液中のヘモグロビンの一つであるヘモグロビンパク質とブドウ糖の割合です。

血糖が高いほど、腎臓の毛細血管に障害が起こり、これが高いほど、進行します。

血糖尿病性神経障害は長い神経ほど障害されるので両足の先から、感覚が無くなったり、痺れたり痛かったりします。また、心臓や血管、胃や腸、膀胱等の神経も障害されます。心筋梗塞が起こっても痛みを感じなかったり、立ちくらみ、便秘、下痢、排尿障害等が起こります。これらの障害は血糖コントロールを事がわかっていて進行が食い止めるの事で、一旦障害されると再生しかし、早期に発見する事が重要です。

網膜は網の目状に毛細血管が巡らされていて、それが傷つくと、出血したり詰まったりします。血糖や血圧のコントロールが禁煙がこれらの進行を食い止めます。網膜の血管が詰まるとして新しい血管を作りだしますが、その先に酸素を送ろうとしてもろくてもちょっとした事で大量の出血を起こします。定期的な眼科受診で適切な時期にレーザー治療法を行えば新しい血管が作られるのを阻止出来ますし、例えば出血を起こしてしまっても、硝子体切除術等で視力を回復させる事も出来るようになってきています。

来月号へつづく

公開市民講座のご案内

●一一月二七日（水）
午後三時より

「いつまでも歩いてすごそう
～転倒予防と
転ばない体づくり」

理学療法士長　門奈　芳生

＜場　所＞
研修棟講堂

一一月集団指導のご案内

☆減塩教室

日時　第三木曜日
午後二時～

場所　第四会議室

二一日
『薬まかせにしない
血圧管理
～食品中の塩分を知って
美味しく楽しく
減塩しよう～』
管理栄養士

☆糖尿病教室

日時　第一～四金曜日
午後三時～

場所　第四会議室

一日
『お外で
美味しく食べよう
外食の選び方』
栄養管理士

八日
『糖尿病と検査値』
臨床検査技師

一五日
『糖尿病とは・・・
原因・症状・合併症など』
内科医師

二二日
『運動療法について』
理学療法士

※予約の必要はありません。
お気軽にお越しください。